

荒尾市のSDGs事情

荒尾市内の持続可能な取り組み

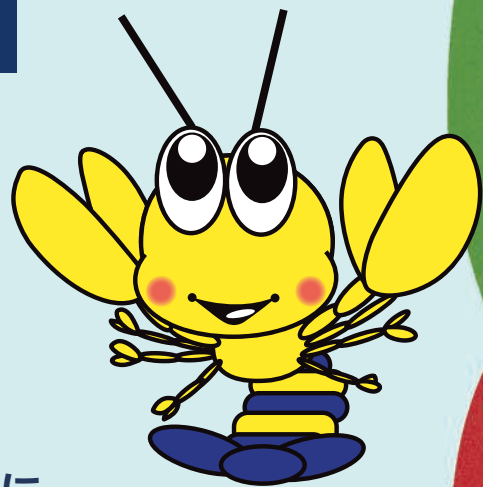
SDGsとは…

世界には、環境問題・貧困・紛争・人権問題など多くの課題があり、「このままでは安定してこの世界で暮らし続けることが困難になっていくのではないかと心配な状況になってきました。そこで、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」を国際社会の共通目標として、地球上のさまざまな課題を世界のみみんなで2030年までに解決していこうというものです。そして、課題を解決したうえでその状態を維持し、誰一人取り残さず世界中の人たちが安心・安全に暮らせる社会を目指します。

世界的な課題を解決に導くための17の目標



SDGsって難しく感じるけど、簡単に言えば「17の目標に向かって、一人ひとりができることをみんなで取り組もう!」ということだよ。



今月は、さまざまな課題を解決するために荒尾市内でSDGsに取り組む人たちをご紹介します!

今月の税

☑ 軽自動車税



☑ 固定資産税 1期



税金などの納付方法は決まっていますか? 納め忘れのないように座振替がおすすめです!

納期限
5月31日(金)

☎ 収納課 ☎63-1353 ☎63-1362

お忘れなく!

このマークを知っていますか?

障がい者に関するマークを紹介しします。このマークを見かけたときは、思いやりのある行動をお願いします。

ヘルプマーク

人工関節を使用している人、内部障がいや発達障がい、難病の人、妊娠初期の人など、外見からは分からなくても配慮が必要であることを知らせるマークです。このマークを着用している人を見かけたら、バスや電車では席を譲る、困っているようであれば声をかけるなどの配慮をお願いします。



☎ 福祉課 福祉係 ☎63-1406

さまざまな方法で広報紙がチェックできます

声の広報

文字による情報入手が困難な障がい者のための音声録音版広報紙
☎ 福祉課 福祉係 ☎ 63-1406

広報あらおをスマホでCheck!



マチを好きになるアプリ

アプリをダウンロードすると、いつでも・どこでも・簡単に広報紙が閲覧できます。



荒尾市公式LINE

新型コロナウイルス感染症に関する情報や災害・防災などの緊急情報をお届けします。友だち登録はこちらから▶



今月のTopics!

おもな内容

- 3 特集 荒尾市のSDGs事情
- 8 まちの話
- 11 「あらおの企業」動画配信
- 12 健康福祉まつり
- 14 保健・健康
- 16 有明医療センター 外来診療担当医表
- 17 初めてのHAPPY BIRTHDAY
- 18 少子化対策
- 20 元気にすくすく! 荒尾っ子
- 21 子育てに関するお知らせ
- 23 暮らしの情報 PICK UP
- 25 暮らしの情報
- 32 うまか〜レシビ 人権のいろいろ ゆめタウンシティモール テナント紹介
- 33 図書館へ行こう! 荒尾総合文化センター 自主文化事業
- 34 あらおカレンダー
- 35 平日夜間・休日当番医
- 36 マジャク釣り大会

人の動き 3月末現在 (外国人住民を含む)

人口 49,394人 (-156)
 男性 23,379人 (-100)
 女性 26,015人 (-56)
 世帯数 24,038世帯(+28)
 ※()内は前月比の増減

「マイバッグはもう常識ですね」と言うマイバッグ持参のお客様。



ゆめタウン シティモール



(株)イズミ

店長
さこ だいすけ
佐古 大典さん

荒尾市社会福祉協議会と協力し、フードドライブも実施。▼
(寄付のみで持ち帰り不可)



▲不要なペットボトルやアルミ缶を回収してもらえ、ポイントまでもらえる！



わたしたちの取り組み

- 1 費用をなくそう
- 2 削減をゼロに
- 11 自み掛けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任

etc...

食を通じて健やかな社会を

地域の問題をみんなで解決！
フードドライブ・バンク事業

「地域の困りごとを、地域の皆さんと一緒に解決する」をコンセプトに、子育てや介護福祉、生活支援など幅広い分野で暮らしをサポートする荒尾市社会福祉協議会。なかでも近年広がりをみせているのが、「フードドライブ・フードバンク事業」で、これは各企業や団体・個人から寄付により集まった食品を同会が預かって管理し、主に市内の生活困窮者を対象に、緊急的に食品を提供する取り組みです。また、個人をはじめ、子ども食堂や児童福祉施設にも提供しています。

必要な支援を行き渡らせ

「コミュニティの場にもしたい

」食品を無料でもらえるため、利用する側のハードルが低いという利点があります。日本人は大変な状況でもギリギリまで我慢する傾向がある

ので、支援が必要な人たちとの接点ができる点でもメリットが大きいです」と話すのは、同会の地域共生課長野尻さん。同会では対象者に食品を渡すだけでなく、丁寧にヒアリングし、その人に必要な別の支援も提案しているのだとか。話を聞いていくうちに、心身の病気や児童虐待などの問題が見えてくることも多く、踏み込んだ支援ができるという成果も挙がっています。フードドライブ・フードバンクの活動は、県内の企業や団体の理解も進んでいて、連携が大きくなっているそうです。

「今後は食品を提供する側と受け取る側が「コミュニケーション」を取れる『配布会』などの機会を増やしていきたいです。提供側と受け取る側の仲介だけでなく、人と社会をつなぐ「コミュニティ」としての機能も果たしていきたいですね」と食を通じて「コミュニティづくり」についても話してくれました。食を通じて広がる健やかな社会に期待したいです。

「捨てない」から始まる未来

楽しみながら得をする環境に優しい取り組み

ゆめタウンシティモールでは、環境や貧困といった社会問題の解決や、より良い地域づくりのための取り組みを行っています。特に近年広がっているのが捨てない取り組み。その一つがマイバッグ持参運動です。令和2年にレジ袋の有料化が義務付けられたことで周知は進みましたが、同店ではさらに踏み込んだキャンペーンを行いました。「廃材を使ったオリジナルのエコバッグを作りました。これをプレゼントする企画を行ったことで、意識を高める機会になったと思います」と話す店長の佐古さん。そんな努力もあって、現在では大半のお客様がマイバッグを持参するそうです。また同店では、不要なペットボトルやアルミ缶をBOXに入れることで、お店のアプリに値引積立額が貯まっていく「自動回収機」も設置。これまで不要物を無料で回収する施設は多くありましたが、同店の

よつに「ごみで得をする」というサービスは珍しいかもしれませんが。回収物は捨てることなく、再利用されています。

人も、地域も、お店も

全方位で幸せになるために

昨年9月、太陽光パネルを使った工作教室や、フリーマーケットでリユースの大切さを学ぶSDGs体験を開催。3月にも、使わなくなったおもちゃを持ち寄り、他のほしいおもちゃを持ち帰ってもらう「おもちゃ交換会」を開催したところ、800点のおもちゃが集まったとか。思い入れのあるおもちゃを次の人に使ってもらえるのが嬉しい「買うお金がなくても、おもちゃを手に入れることができたと」大好評。これらのイベントを通して、物の大切さや貧困の解決、人とのつながりを感じられることができ、有意義だったそうです。

「地域が良くなると、お店も良くなりません。地域のために、今後も積極的に取り組みたいです」と取り組み継続の意思を話してくれました。

荒尾市 社会福祉 協議会



荒尾市社会福祉協議会
地域共生課 課長
のじり だいすけ
野尻 大輔さん

提携先の1つである、ゆめタウンシティモールには、利用者からの感謝の言葉を掲示。▼



▲集まった食品は賞味期限を管理し、フードロスを出さないよう心掛けている。

アレルギーの有無や、さまざまなことを考慮しながら対象者に合った食品を渡す。

わたしたちの取り組み

- 1 費用をなくそう
- 2 削減をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 11 自み掛けられるまちづくりを

etc...